

分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 38
施策	222	介護等への支援の充実	
5年後の目標		認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	認知症施策総合推進事業		会計	款	項	目	24,073,856	高齢介護課
			介護	3	3	2		
	事業の概要							
認知症対応型カフェ事業等の啓発や活動の促進を図りながら、認知症の早期発見から症状に応じた適切な対応まで可能となる体制の構築に努めます。また、市民の認知症への理解を深めるための普及啓発を関係機関が行うことで、地域とのネットワークを構築しながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整備します。								

令和元年度の取組						
D (取組)	指標(～H29年度)		認知症サポーター養成講座受講者数(累計)			単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	3,263 (平成26年度)	目標	4,800	5,600		
		実績	5,128	5,798		
	指標(H30年度～)		おでかけあんしん見守り事業協力者数			単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	1,227 (平成28年度)	目標			2,000	2,200 2,400
		実績			17,044	21,959
	- 認知症初期集中支援チームとして延べ22ケースを支援しました。 - 認知症対応型カフェについては計11か所開設しており、気軽に集える居場所として取り組んでいます。 - 模擬訓練を通して、主にアプリの使い方について啓発に取り組みました。 - 認知症サポーター養成講座では、企業の職員研修や小学校での実施を含め全21回開催し、認知症の理解推進に努めました。					模擬訓練の様子
						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		認知症サポーターの数		地域で見守る体制を構築する為、若年世帯等にも受講者を増やす必要があります。
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ おでかけあんしん見守り隊として6事業所が新規登録、見守りメールは68名の新規登録がありました。この見守りメールへの情報により発見に繋がったケースがありました。 ・ 認知症サポーター養成講座を通じ、令和元年度は特に若年層への認知症の啓発ができました。
	課題等	・ 事前登録者の家族から、かえるお守り(Bluetoothタグ)やGPSなどの特徴や使い方がわからないという意見がありました。		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・ 事前登録者自身や家族に対し、使用機器の役割や機能についてより丁寧に説明していきます。 ・ 事業協力者が多ければ多いほど見守り機能が高まるため、これまでの本事業の実績、成果を伝えていくことで、新たな事業協力者の参入を促していきます。

分野	22	高齢福祉・障がい福祉	通番 39
施策	222	介護等への支援の充実	
5年後の目標		認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	民間老人福祉施設等 整備・運営支援事業		会計	款	項	目	168,460,000	高齢介護課
			一般	3	1	2		
	事業の概要							
	一人暮らしや高齢者世帯の増加などにより、安心して住み慣れた地域で生活が継続できる環境整備が求められており、また家族の介護を理由とした介護離職が課題となっていることから、特別養護老人ホーム等(認知症グループホーム及び有料老人ホームを含む)の施設整備を計画的に促進します。また、事業所が安定かつ適切な運営を行えるよう支援します。							

令和元年度の取組						
D (取組)	指標(～H29年度)		特別養護老人ホーム数			単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	5(平成26年度)	目標	6	7		2
		実績	6	7		
	指標(H30年度～)		特別養護老人ホーム等の定員数			単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	559(平成28年度)	目標			599	599
		実績			630	669
	・ 定員29人の介護老人保健施設が開設されました。同施設に対して、地域密着型サービス拠点等整備補助金を交付しました。 ・ 令和2年度に定員29人の地域密着型特別養護老人ホームを開設するため、事業者の選定を行いました。 ・ 5事業所に民間老人ホーム等施設振興補助金を交付し、事業所が安定かつ適切に運営できるよう支援を行いました。					特別養護老人ホームの様子
						

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和元年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		
		—		—		
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 第7期介護保険事業計画に基づいて、特別養護老人ホーム等の開設を計画どおりに進めることができました。 ・ 特別養護老人ホームで10人、介護老人保健施設で29人の定員増となりました。		
	課題等	・ 施設入所待機者は年々減少していますが、依然として一定数存在するため、引き続き施設整備が必要です。(令和元年度特養待機者126人、京都府調べ。)				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・ 有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅やグループホームといった高齢者の住まいの整備状況なども考慮しつつ、施設整備を進めていきます。